

[06] 形態よりみたカキ(*Diospyros kaki* L.f.) の品 種分化に関する研究

白石, 眞一

土師, 岳

若菜, 章

<https://doi.org/10.15017/13932>

出版情報 : 九州大学農学部農場報告. 6, pp.1-58, 1991-09-25. 九州大学農学部附属農場
バージョン :
権利関係 :

第5章 総合考察

本研究ではまず品種間差異が明らかに認められかつ環境変異の小さい形質として、果実では果形指数、へたくぼ比、果頂裂果の有無、へたすきの有無、条紋の有無、へた部のしわの発生程度の6形質、種子では種子形指数の1形質、雌ずいでは雌ずいの長短(指数)、花柱の長短(指数)、子房の長短(指数)、花柱の分岐程度(指数)、雌ずいの毛の発生程度の5形質、成葉では葉形指数I、葉形指数II、葉脚の角度の3形質を認めた。次にこれらの形質を用いて甘渋4品種群の比較ならびに地理的分布の特徴を調査し次のような結果を得た。

- 1) 完全甘ガキは完全甘ガキ以外に比べて一般に品種間変異が最も小さく一部の形質ではその頻度分布に偏りが認められた。すなわち果形は扁形、種子は短形から円形、成葉には細長い葉身を持つ品種は認められず葉形は心臓形から楕円形であり、果頂裂果発生品種、へたすき発生品種、へた部のしわ発達品種が特異的に多く認められた一方で条紋発生品種は認められなかった。このように完全甘ガキは完全甘ガキ以外に比べて形態的に特異性が認められた。
- 2) 地理的分布を見た場合果実、種子、雌ずい、成葉のいずれにおいても一般に特定形質で特異な値あるいは特異な状態を示した品種は地理的に偏って分布する傾向が認められた。完全甘ガキに特異的に見られる形質を持つ品種は完全甘ガキの原産地である近畿地方と東海地方を中心に近畿地方以東に偏って分布しており、完全甘ガキ以外の一部の品種に見られた形質を持つ品種にも同様な分布が認められた。このうち葉形については近畿地方、東海地方、関東・甲信地方の品種は心臓形から楕円形の葉形に偏った頻度分布を示したのに対して、韓国品種はほとんど全ての品種で葉形が紡錘形であり、中国・四国地方、東北・北陸地方、さらに九州地方と近畿地方、東海地方、関東・甲信地方から離れるにつれ心臓形の品種は認められなくなり紡錘形の品種が出現する傾向、すなわち地理的勾配が認められた。

以上の点は環境変異が小さいと考えられる形質を用いて得られた結果なので遺伝的変異に基づくものと考えられる。

まず甘渋4品種群の比較から完全甘ガキは完全甘ガキ以外に比べて一般に品種間変異が小さいことが明らかになった。このことは完全甘ガキの品種分化が浅いことを示していると考えられる。さらに一部の形質では完全甘ガキが完全甘ガキ以外に比べて特異的に偏った頻度分布を示したことを併せて考えると、完全甘ガキはカキ全体から見ると遺伝的に偏った特異な品種群であると考えられる。

完全甘ガキの原産地は近畿地方と東海地方にほぼ限られること、カキは各地で独自に半野生化の状態ですべて品種分化が進んできたと考えられることから、原産地別に品種の地理的分布を見た。その結果特定形質で特異な値や特異な状態を示した品種は地理的にも偏って分布する傾向が認められ、果実、種子、成葉で完全甘ガキに特異的に多く認められた形質を持つ品種は完全甘ガキ以外の品種であっても、完全甘ガキの原産地である近畿地方および東海地方を中心に、近畿地方以東に偏って分布した。さらに果実、雌ずいで完全甘ガキ以外の一部の品種に限り認められた形質についても同様な傾向が認められた。このように近畿地方と東海地方を中心とした近畿地方以東の地域は最も変異に富んでおり、この地域に固有と見なされる変異が認められたことから品種分化が最も進んだ地域と考えられる。そし

てこれらの地域のみ分布する完全甘ガキは品種分化が浅くかつ偏っていると考えられることから、これらの地域における変異の一つの型と考えられる。

さらに葉形については明らかな地理的勾配が認められ、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方の品種と韓国品種とは対照的な頻度分布を示し、中国・四国地方、東北・北陸地方、九州地方と、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方から離れるにつれその頻度分布が韓国品種のそれに類似していく傾向が認められたことを考慮に入れると、近畿地方、東海地方、関東・甲信地方に分布する品種は調査品種全体からながめると特異な集団であり韓国品種との関係もそれ程深くないのに対して、これらの地域の周辺部である中国・四国地方、東北・北陸地方、九州地方には韓国品種に類似した品種が点在していると考えられる。

以上の結果から日本のカキは地理的に偏って品種分化をしていると考えられる。